

課題別研修

ーいじめ防止パッケージ H28事例ー

いじめ事例（小学校）

○以下の語は（ ）内を意味する
スマホ（スマートフォン）
S S T（ソーシャルスキルトレーニング）

1 A男（5年生）は自分の思いをはっきりと言うことができ、何事にも積極的に取り組む児童
2 である。4年生時の担任からは「リーダーシップを発揮するが、きつい言い方をすることがあ
3 り、周りの子供たちが引いてしまうことがある。」と引き継ぎがあった。

4 ゴールデンウィークが明けた5月中旬の昼休み、A男は同級生の友達と運動場でサッカーを
5 して遊んでいた。この日は上級生（4～6年生）が運動場を使える日だったこともあり、他で
6 もサッカーやキックベースボールをしていた。

7 そこへ6年生のB男がやって来て「おい！5年！6年がサッカーやるからお前らはどけ！」
8 と、大きな声で怒鳴った。遊んでいた5年生の多くは、普段から横暴なB男に関わりたくない
9 気持ちがあり、仕方なく散り散りになっていった。A男は、B男に対して無性に腹が立つとと
10 もに、そんな理不尽を受け入れようとしている5年生を見て辛い気持ちになった。

11 そして、A男は、サッカーを始めたB男に「B男くん、僕らもサッカーをしたいんだけど！
12 今日は5年も運動場使える日だけど！」と言った。B男はみんなが見ている前で言い返された
13 こともあって、ひときわ大きな声で「うるせー！放課後、ゆっくり教えちゃるわ！」と怒鳴り、
14 A男を無視して遊び続けた。A男は納得できないまま、仕方なくこの場を引き上げた。

15 夕方、仕事を終えて帰宅してきた母親は、普段ならリビングでTVを見て待っているA男が自
16 分の部屋に居たことに違和感を覚えた。

17 次の日の朝、母親はA男の重苦しい雰囲気を感じ取り「どうしたの？調子悪いの？」と尋ね
18 たが、A男は「いや、大丈夫だよ。今日は暑いから上着はいいや。」とカッターシャツのまま家
19 を出た。母親は何か心に引っかかるものを感じながらも、家事を済ませて仕事に出かけた。

20
21 そして、9時半頃、担任から母親のスマホに「A男君どうしました？お休みの連絡が来てい
22 ませんが、自宅にお電話しても誰も出ませんのでこちらにさせていただきました。」と連絡が入
23 った。母親は慌てて昨日と今朝の様子を担任に伝え、急遽、上司に了解を得て帰宅した。自宅
24 前では、既に心配して駆けつけた教頭が待っていた。施錠された自宅に入ってみると、A男が
25 泣きながら、汚れてボタンが取れた上着を直していた。

26 母親と教頭は、A男が泣き止むのを待って、昨日の昼休みの出来事と放課後B男に暴行を受
27 けたことを聞き取った。教頭は帰校後、校長、生徒指導担当、学年主任、A男とB男の担任に
28 報告し、直ちに生徒指導委員会を開いた。

29 そして、委員会でこの件は「いじめ」に該当することを確認した。B男の担任は生徒指導担
30 当と家庭訪問をして保護者に状況を説明し、B男への指導と事後対応について協力を求めた。
31 学校ではA男が安心して登校できるよう当面の間、A男の近くで見守る教員を配置することに
32 した。

33 さらに状況の改善が急がれると判断した教務主任は、他人との適切な関わり方を体験を通し
34 て学ぶS S Tに全校で取り組むとともに、全学年の児童全員がお互いに思いやりをもって心地
35 よく学校生活を送ることができるよう、行事や登下校の時だけでなく給食の配膳や掃除などで
36 も日頃からピア・サポート活動を導入することを提案し、実施した。

37 その後、A男は徐々に相手のことを考えて、優しい言い方で自分の思いを話せるようになり、
38 B男は後輩に頼られることで自己有用感が高まり、相手のことを考えて行動することができる
39 ようになった。そして、時間はかかったが約3か月後、A男とB男は保護者と教員同席のもと
40 に和解することができた。

課題別研修

ーいじめ防止パッケージ H28事例ー

○以下の語は（ ）内を意味する
スマホ（スマートフォン）
S S T（ソーシャルスキルトレーニング）

いじめ事例（中学校）

1 A男（2年生）は自分の思いをはっきりと言うことができ、何事にも積極的に取り組む生徒
2 である。1年生時の担任からは「リーダーシップを発揮するが、正論を強く言いすぎるところ
3 があって、周りの生徒たちが引いている部分がある。」と引き継ぎがあった。

4 5月中旬の昼休み、A男は友達と廊下で話をしていた。そこへ3年生のB男たちが通りかか
5 り「お前ら、どけ！」と、大きな声で怒鳴った。B男たちは普段から乱れた服装や反抗的な態
6 度、遅刻や授業中の徘徊などで目立っていたため、A男たちは関わりたくない気持ちがあり、
7 仕方なく通路を開けた。A男は、普段からルールを守れないB男たちに腹が立っていたため、
8 睨み付けながら通りかかっているB男に「恥ずかしい。外でやればいいのに。」と聞こえるよう
9 に言った。B男は仲間や後輩が見ている前で言われたこともあり、「お前、放課後ゆっくり話そ
10 うやあ。帰んなやあ。」と言い捨てて通り過ぎた。

11 このことは誰からということもなく2年団教員の知ることとなり、A男の担任のC教諭は「大
12 丈夫かあ？」と声かけをしたが、A男は「相手にしてもらえませんから。」と言うだけで、それほ
13 ど気にしている様子は感じられなかった。

14 夕方、仕事を終えて帰宅してきた母親は、普段ならリビングでTVを見ているA男が自分の部
15 屋にいることに違和感を覚え、声をかけたが「宿題をしているから。」ということだった。

16 次の日の朝、母親はA男の重苦しい雰囲気を感じ取り「どうしたの？調子悪いの？」と尋ね
17 たが、A男は「いや、大丈夫。もう5月で暑いから今日から上着はいいや。」とカッターシャツ
18 のまま家を出た。母親は何か心に引っかかるものを感じながらも、家事を済ませて仕事に出か
19 けた。

20 そして、10時頃、C教諭から母親のスマホに「A男君どうしました？お休みの連絡が来てい
21 ませんが、自宅にお電話しても誰も出ませんのでこちらにさせていただきました。」と連絡が入
22 った。母親は慌てて今朝の様子を伝え、急遽、上司に了解を得て帰宅した。自宅前には、既に
23 心配して駆けつけたC教諭と生徒指導主事のD教諭が待っており、母親とともに自宅に入って
24 みると、破れた上着を繕っているA男がいた。

25 C教諭とD教諭は、A男から昨日の昼休みの出来事と放課後B男に暴行を受けたこと、その
26 時数名の野次馬がいたことなどを聞き取った。C教諭とD教諭は帰校し、学年主任と管理職に
27 報告した後、B男の担任のE教諭を加えて生徒指導委員会を開いた。

28 生徒指導委員会で、この件は「いじめ」に該当することを確認した。D教諭は野次馬で見て
29 いた数名の生徒に電話で状況を聞き取り、その情報を基に直接B男と話をするため、E教諭と
30 二人でB男宅に家庭訪問した。B男は状況を確認されていることに観念し、時間をかけず事実
31 を認めたため、その場で保護者に事情を説明し、B男への指導と事後対応について協力を求め
32 た。学校ではA男が安心して登校できるよう当面の間、常にA男の近くで見守る教員を配置す
33 ることにした。

34 さらに状況の改善が急がれると判断したD教諭は、他人との適切な関わり方を体験を通して
35 学ぶS S Tに取り組むとともに、全学年の生徒全員がお互いに思いやりをもって心地よく学校
36 生活を送ることができるよう、行事の時だけでなく部活動や生徒会活動でのピア・サポート活
37 動を強化することを提案し、全校で実施した。

38 その後、A男は徐々に相手のことを考えて、優しい言い方で自分の思いを話せるようになり、
39 B男は後輩に頼られることで自己有用感が高まり、相手のことを考えて行動することができる
40 ようになった。そして、時間はかかったが約3か月後、A男とB男は保護者と教員同席のもと
41 に和解することができた。

課題別研修

－いじめ防止パッケージ H28事例－

○以下の語は（ ）内を意味する
H R（ホームルーム）

いじめ事例（高等学校）

1 A子（2年生）は自分の思いをはっきりと言うことができ、何事にも積極的に取り組む生徒
2 である。休憩時間、A子はいつも数名の男女と賑やかに過ごしている光景が見られていた。

3 しかし、1学期中旬頃から、A子は本を読んだり、勉強をしたりと、一人で休憩時間を過
4 す様子が見られるようになった。担任が気になってA子に「最近、何か友達関係変わった？」と
5 尋ねると、A子は「別にそんなことないです。彼氏ができたことくらいかなぁ。」と嬉しそうに
6 答えた。担任は、A子が女子生徒と話をしたり、一緒に教室移動をしたりしなくなっているよ
7 うな気がしていたが、しばらく様子を見ることにした。その後、A子が2学期に行われる学校
8 祭の実行委員に立候補している姿を見て、担任は安心感を覚えた。

9 1学期の期末考査期間中の放課後、全員下校している教室に一人残って勉強をしているA子
10 の姿があった。教室整備に来た担任は、最近のA子の様子をうかがうチャンスだと思い「テス
11 トの出来はどう？彼氏とは上手くいってるの？」と聞いてみた。するとA子は突然、大粒の涙
12 を流しながら「私、彼氏と全然話せてない。話そうとしてもみんながジロジロ見てきたり、ヒ
13 ソヒソ話をして笑われたりするんです。最近、女子は誰も話してくれなくなったし・・・」と
14 不安な気持ちを打ち明けた。

15 担任は、ひとまずA子が話したいだけ話を聴いて落ち着かせ、帰宅させた上で職員室に戻っ
16 て、ことの顛末を同僚に話した。すると学年主任から「私たちが分からないところで、仲間外
17 しのようなことが起きているかも知れないなぁ。無記名での生活アンケートを取って、全員対
18 象の教育相談をしよう。」と提案があった。

19 実施したアンケートや教育相談から、「A子が無視られてる。」「A子に彼氏ができたことを妬
20 んでる人がいる。」「A子は八方美人だと言われてみんなから嫌われている。」などの情報が得ら
21 れた。

22 生徒課会議では、この度の件を「いじめ」と判断して、次のような対応を取ることにした。

- 23 ① A子に事実確認を行い、その内容を共通理解する。
24 ② 悪意のある言動をとった生徒が複数いた場合、複数の教員で分担して事実確認を行う。
25 ③ A子や保護者がどのような解決方法を望んでいるのかを確認する。
26 ④ 主となる生徒が特定されるかどうかにかかわらず、よりよい人間関係の在り方について全て
27 のHRで考える機会を設ける。
28 ⑤ いじめへの対応のために、関係生徒の学年団教員、養護教諭、部活動顧問等からなる対応チ
29 ームを立ち上げ、連携を密にする。
30 ⑥ A子への支援は、担任や一部の教員任せにすることなく、A子が安心して登校できる支援体
31 制を全教職員が協力して築く。

32
33 その後、A子には事実関係の確認を行うとともに、養護教諭、教育相談担当が中心となって
34 気持ちを聴き、継続的に心のケアを図った。そして、担任と副担任で定期的に家庭訪問を行い、
35 保護者の願いを聞くとともに、指導状況を伝え情報を共有した。

36 結果的に、加害生徒の特定はできなかったが、担任がHRで指導するとともに、全HRで（名
37 前は伏せながら）「起こった出来事はいじめであり、いじめは絶対にしてはいけないこと」など、
38 生徒の認識を変えるための指導を根気強く行ったことで、徐々にA子に話しかける友達も増え
39 ていった。

40 生徒課では、今後も生徒の細かな言動に気配りをして、わずかな変化でも報告し、必要な指
41 導が行われるよう連絡体制を再確認した。

課題別研修

ーいじめ防止パッケージ H28事例ー

ネットいじめ事例（小学校）

○以下の語は（ ）内を意味する
スマホ（スマートフォン）
SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）
orz（“落胆”を表現したアスキーアート）

1 A子（6年生）が在籍する学級では約8割の児童がスマホや携帯型ゲーム機でSNSを利用している。このS
2 NSは特定の個人同士でグループをつくることができ、この学級でもA子がよく利用しているグループとして、
3 ・B子が作った仲良しグループ『オンリー』グループ
4 ・C子が作った仲良しグループ『ラブ』グループ
5 などがある。が他にも様々なグループが存在していると思われ、多くの児童がこれらに登録しているようである。
6 なお、B子とC子は些細なことから衝突し、互いの仲は上手くいっていない。
7 また、5月に児童と保護者を対象にSNSの利用について無記名で実態調査をしたところ、『子供がSNSを
8 利用している』と回答した、保護者は約4割であった。

10 ある日、A子に『ラブ』グループに登録しているD子から新しく『ラブリー』グループを作ったと登録の誘い
11 が来た。A子は嬉しくてすぐに登録すると、直後にD子から「ありがとう、これからも仲良くしてね。B子とC
12 子が仲良くなるといいのにね。」と書き込みがあった。A子は即「そうだね。みんな仲良しがいいね。」と返信し
13 た。

14 ところが数分後、『オンリー』グループのB子から「え？A子って『ラブ』にもいたの？マジかよorz」とメ
15 ッセージが入り直後に『オンリー』グループから退会させられてしまった。

16 A子が慌てていると、『ラブ』グループのC子から「E子から聞いたけど～A子ってB子の回し者かぁ」と
17 書き込みをされ、直後に『ラブ』グループからも退会させられた。何が起きているか分からず恐る恐る親友の
18 F子に「私、何か悪いことをしたかなぁ」とダイレクトメッセージを入れたところ、いろいろなグループに登録
19 しているE子が、あること無いことを書き込みしているらしいということが分かった。

20 その夜、A子は震えるほど怖くなりSNSを止めた。

22 次の日、A子が登校するとD子は学校を休んでおり、その他のクラスの女子全員が自分と目を合わせず、挨拶
23 もしてくれない完全無視が始まっていた。A子は10分とクラスに居ることができず、教室を飛び出して、走っ
24 て自宅に帰った。

25 学校では異変に気付いた担任が学級の指導を教頭をお願いして、すぐ家庭訪問し、A子と母親から事情を聞いた。
26 母親はA子がこのような事態に巻き込まれていることに動揺していた。担任はA子と母親を落ち着かせ、こ
27 の件を学校にもち帰って対応を検討する時間をもらうことで了解を得た。

28 帰校した担任は、すぐ管理職と学年主任、生徒指導担当に報告した。その後、生徒指導委員会が開かれ、この
29 事案を「いじめ」として扱うことを共通理解した。生徒指導担当は、管理職の了解を得て、次のように指示した。

- 30 ・生徒指導担当をチーフに援助チームをつくり役割を明確化する。
- 31 ・担任は、A子と母親の承諾を得て、事実関係を把握した上で、個別指導を行い、集団の無視がなくなること
32 を中心とした心に訴える指導を続ける。また、いじめ解消へ向けて、「嫌がらせや仲間はずれは、いじめで
33 ある。」ことを伝える。

34 次の日、担任は出来事の概要をクラス全員に伝え、情報収集のためのアンケート調査を実施した。集まった情
35 報はクラスの人間関係の実態等と併せて生徒指導委員会や職員会議で報告し、全教職員で共有した。そして、今
36 後の支援や指導方針を確認した。

37 その後、一人ずつ丁寧に話を聞き、指導を始めたが状況は良くならなかった。

38 援助チームはこれまでの指導を見直し、個別指導の継続とともに集団への指導を強化することを確認した。A
39 子と母親にも指導状況の説明と今後の支援、指導について全体指導を強化する方針を説明し承諾を得た。

40 翌日、学年の児童全員を体育館に集め、生徒指導担当から辛い思いをしている児童がいることを伝え、「嫌が
41 らせや無視は許せない卑劣な行為である。」「いじめは絶対に許されない。」ことを指導した。その後、学級活動
42 で、嫌がらせや無視をする側の心理、される側の心理を考えさせるロールプレイングや信頼や友情の大切さに気
43 付かせる道徳の授業を実施した。さらに、学年通信等で指導の状況を保護者に伝え、家庭でもいじめやスマホの
44 扱いについて話をしてもらうようお願いをした。その後、A子の支援をきめ細かく継続していく中で、A子を支
45 えてくれる友達が徐々に増えていき、A子への無視はなくなっていった。

課題別研修

ーいじめ防止パッケージ H28事例ー

ネットいじめ事例（中学校）

○以下の語は（ ）内を意味する
スマホ（スマートフォン）
SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）
orz（“落胆”を表現したアスキーアート）

1 A子（2年生）が在籍する学級では生徒の約9割がスマホや携帯型ゲーム機でSNSを利用している。このS
2 NSは特定の個人同士でグループをつくることができ、この学級でもA子がよく利用しているグループとして、
3 ・B子が作った仲良しグループ『オンリー』グループ
4 ・C子が作った仲良しグループ『ラブ』グループ
5 などがある。他にも様々なグループが存在していると思われ、多くの生徒がこれらに登録しているようである。
6 なお、B子とC子は些細なことから衝突し、互いの仲は上手くいっていない。
7 また、5月に生徒と保護者を対象にSNSの利用について無記名で実態調査をしたところ、『子供はSNSを
8 利用している』と回答した保護者は約5割であった。

9
10 ある日、A子に『ラブ』グループに登録しているD子から新しく『ラブリー』グループを作ったと登録の誘い
11 が来た。A子は嬉しくてすぐに登録すると、直後にD子から「ありがとう、これからはヨロシクね。B子とC子
12 が仲良くなるといいのにね。」と書き込みがあった。A子は即「そうだね。みんな仲良しがいいね。」と返信した。
13 ところが数分後、『オンリー』グループのB子から「え？A子って『ラブ』にもいたの？マジかよorz」とメ
14 ッセージが入り直後に『オンリー』グループから退会させられてしまった。
15 A子が慌てていると、『ラブ』グループのC子から「E子から聞いたけど～オマエB子の回し者かぁ」と書
16 き込みをされ、直後に『ラブ』グループからも退会させられた。何が起きているか分からず恐る恐る親友のF
17 子に「私、何か悪いことをしたかなぁ」とダイレクトメッセージを入れたところ、いろいろなグループに登録し
18 ているE子が、あること無いことを書き込みしているらしいということが分かった。

19 その夜、A子は震えるほど怖くなりSNSを止めた。

20
21 次の日、A子が登校すると、D子は学校を休んでおり、その他のクラスの女子全員が自分と目を合わせず、挨拶
22 してもらえない完全無視が始まっていた。A子は10分とクラスに居ることができず、教室を飛び出して、走
23 って自宅に帰った。

24 学校では異変に気付いた担任がすぐに家庭訪問し、A子と母親から事情を聞いた。母親はA子がこのような事
25 態に巻き込まれていることに動揺していた。担任はA子と母親を落ち着かせ、この件を学校にもち帰って対応を
26 検討する時間をもらうことで了解を得た。

27 帰校した担任は、すぐ管理職と学年主任、生徒指導主事に報告した。その後、生徒指導委員会が開かれ、この
28 事案を「いじめ」として扱うことを共通理解し、生徒指導主事は、管理職の了解を得て、次のように指示した。

- 29 ・生徒指導主事をチーフに援助チームをつくり役割を明確化する。
30 ・担任は、A子と母親の承諾を得て、事実関係を把握した上で、個別指導を行い、集団の無視がなくなること
31 を中心とした心に訴える指導を続ける。また、いじめ解消へ向けて、「嫌がらせや仲間はずれは、いじめで
32 ある。」ことを伝える。

33 次の日、担任は出来事の概要をクラス全員に伝え、情報収集のためのアンケート調査を実施した。集まった情
34 報はクラスの間関係の実態等と併せて生徒指導委員会や職員会議で報告し、全教職員で共有した。そして、今
35 後の支援や指導方針を確認した。

36 その後、一人ずつ丁寧に話を聞き、指導を始めたが状況は良くならなかった。

37 援助チームはこれまでの指導を見直し、個別指導の継続とともに集団への指導を強化することを確認した。A
38 子と母親にも指導状況の説明と今後の支援、指導について全体指導を強化する方針を説明し承諾を得た。

39 翌日、学年の生徒全員を体育館に集め、生徒指導主事から辛い思いをしている生徒がいることを伝え、「嫌が
40 らせや無視は許せない卑劣な行為である。」「いじめは絶対に許されない。」ことを指導した。その後、学級活動
41 で、嫌がらせや無視をする側の心理、される側の心理を考えさせるロールプレイングや信頼や友情の大切さに気
42 付けさせる道徳の授業を実施した。さらに、学年通信等で指導の状況を保護者に伝え、家庭でもいじめやスマホの
43 扱いについて話をしてもらうようお願いをした。その後、A子の支援をきめ細かく継続していく中で、A子を支
44 えてくれる友達が徐々に増えていき、A子への無視はなくなった。

課題別研修

ーいじめ防止パッケージ H28事例ー

ネットいじめ事例（高等学校）

○以下の語は（ ）内を意味する
スマホ（スマートフォン）
SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）
LHR（ロングホームルーム）
orz（“落胆”を表現したアスキーアート）

1 A子（1年生）が在籍する学校では、ほぼ全員の生徒がスマホでSNSを利用している。このSNSは特定の
2 個人同士でグループをつくることができ、A子のクラスでは、A子もよく利用しているグループとして、
3 ・B子が作った仲良しグループ『オンリー』グループ
4 ・C子が作った仲良しグループ『ラブ』グループ
5 などがある。他にも様々なグループが存在していると思われ、多くの生徒がこれらに登録しているようである。
6 なお、B子とC子は些細なことから衝突し、互いの仲は上手くいっていない。
7 また、5月に生徒と保護者を対象にSNSの利用について無記名で実態調査をしたところ、『子供がSNSを
8 利用している』と回答した保護者は約8割であった。

9
10 ある日、A子に『ラブ』グループに登録しているD子から新しく『ラブリー』グループを作ったと登録の誘い
11 が来た。A子は嬉しくてすぐに登録すると、直後にD子から「ありがとう、これからはヨロシクね。B子とC子
12 が仲良くなるといいのにね。」と書き込みがあった。A子は即「そうだね。みんな仲良しがいいね。」と返信した。
13 ところが数分後、『オンリー』グループのB子から「え？A子って『ラブ』にもいたの？マジかよorz」とメ
14 ッセージが入り直後に『オンリー』グループから退会させられてしまった。
15 A子が慌てていると、『ラブ』グループのC子から「E子から聞いたけど～オマエB子の回し者かぁ」と書
16 き込みをされ、直後に『ラブ』グループからも退会させられた。何が起きているか分からず恐る恐る親友のF
17 子に「私、何か悪いことをしたかなぁ」とダイレクトメッセージを入れたところ、いろいろなグループに登録し
18 ているE子が、あること無いことを書き込みしているらしいということが分かった。

19 その夜、A子は震えるほど怖くなりSNSを止めた。

20
21 次の日、A子が登校すると、D子は学校を休んでおり、その他のクラスの女子全員が自分と目を合わせず、挨拶
22 もしてくれない完全無視が始まっていた。A子は10分とクラスに居ることができず、教室を飛び出して、走
23 って自宅に帰った。

24 学校では異変に気付いた担任がすぐに家庭訪問し、A子と母親から事情を聞いた。母親はA子がこのような事
25 態に巻き込まれていることに動揺していた。担任はA子と母親を落ち着かせ、この件を学校にもち帰って対応を
26 検討する時間をもらうことで了解を得た。

27 帰校した担任は、すぐ管理職と生徒課長、学年主任、学年の生徒指導担当に報告した。その後、生徒課会議が
28 開かれ、この事案を「いじめ」として扱うことを共通理解し、生徒課長は、管理職の了解を得て、次のように指
29 示した。

- 30 ・学年の生徒指導担当をチーフに援助チームをつくり役割を明確化する。
31 ・担任は、A子と母親の承諾を得て、事実関係を把握した上で、個別指導を行い、集団の無視がなくなること
32 を中心とした心に訴える指導を続ける。また、いじめ解消へ向けて、「嫌がらせや仲間はずれは、いじめで
33 ある。」ことを伝える。

34
35 次の日、担任は出来事の概要をクラス全員に伝え、情報収集のためのアンケート調査を実施した。集まった情
36 報はクラスの人間関係の実態等と併せて生徒課会議で報告し、学年団会議を通して全教職員で共有した。そして、
37 生徒課会議では今後の支援や指導方針を確認した。

38 その後、一人ずつ丁寧に話を聞き、指導を始めたが状況は良くなかった。

39 援助チームはこれまでの指導を見直し、個別指導の継続とともに集団への指導を強化することを確認した。A
40 子と母親にも指導状況の説明と今後の支援、指導について全体指導を強化する方針を説明し承諾を得た。

41 翌日、学年の生徒全員を体育館に集め、学年の生徒指導担当から辛い思いをしている生徒がいることを伝え、
42 「嫌がらせや無視は許せない卑劣な行為である。」「いじめは絶対に許されない。」ことを指導した。その後、L
43 HRで、嫌がらせや無視をする側の心理、される側の心理を考えさせるロールプレイングや信頼や友情の大切さ
44 に気付かせる授業を実施した。さらに、学年通信等で指導の状況を保護者に伝え、家庭でもいじめやスマホの扱
45 いについて話をしてもらうようお願いをした。その後、A子の支援をきめ細かく継続していく中で、A子を支え
46 てくれる友達が徐々に増えていき、A子への無視はなくなっていた。